

平成 30 年度 第 3 回高知支部評議会 議事録

開催日時 平成 30 年 10 月 30 日 (火) 15 時 00 分～17 : 00 分

開催場所 高知会館 4 階「弥生」

出席評議員 被保険者代表・・・田平正博 折田晃一 島内 勉
事業主代表・・・古谷純代 嘉数 実 亀井秀彦
学識経験者・・・横川和博 入福聖一 遠山 仁

議題

- 議題 1 平成 31 年度保険料率について
- 議題 2 その他

議事概要

○事務局から各議題について資料に基づき説明を行う

(主な意見は次の通りです)

- 【評議員】 協会けんぽの健康保険料率については「単年度収支均衡」という前提の上に評議会でも議論をしてきたが、理事長の発言（平成 29 年 12 月運営委員会）では、「保険料率をどれほどのタイムスパン、時間の幅で考えるかは保険者の裁量、選択の問題である」というのがあり、違和感を感じます。
- 【評議員】 健保組合が解散して協会けんぽに編入されるというニュースを見ますが、協会けんぽの保険料率への影響はどう考えますか。
- 【事務局】 協会けんぽの加入者数は約 3,900 万人規模なので、健保組合加入者の年齢構成は分かりませんが、影響は限定的だと考えています。
- 【評議員】 保険料率を下げることで補助金 that 下がるかもしれないリスクと、準備金が貯まることで補助金を下げられるリスク、どちらのリスクも可能性としてあるのであれば、準備金を貯め続ける意味はないと思います。
- 【評議員】 現在の準備金の黒字は現役世代の納付の積み重ねによる結果であり、保険料

率の引き下げによって還元されるのも現役世代であるべきですね、今のまま黒字を積み上げ続けて、リスクばかり背負わされても現役世代に何のメリットもないと感じます。

【事務局】 そういうご意見もあると思います。

【評議員】 議論するための資料も、前年度までのことは2～3行の文章で、逆に5年先10年先の予想は詳細だ。

しかし、われわれが見てみたいのは5年前の予測と、現在の実績がいかに乖離しているか。それを見れば、もっといろいろな意見が出ると思う。

【評議員】 高知支部評議会は本当に長い間議論してきた。

ここまで準備金がたまると、下げる議論を数年に一度やってもまだ間に合う。

【評議員】 激変緩和措置と、後に続くインセンティブ制度まで考えると、引き下げられるときにきちんとしないと、支部によっては相当な状況になる。

10.00%の限界の話もそうだが、格差がどこまで広がるのか、大変ですよ。

【評議会】 保険料率は下げるべきである。事業主の負担を考えてほしい。理由は準備金の多さと、事業主の現状です。

しかも、積み上がった準備金のうち16.4%が国の調整規定で戻されているのはおかしい。

【評議員】 都道府県別の考え方は、収支の良いところは安くしようということ。

しかし、都道府県でも個人によって、高額収入で医療費を使わない方もいれば、普段の生活に困っている方もいるように、様々です。

そう考えると 全国一律が一番良い考え方ではないですか。

【評議員】 制度設計をやり直すという議論はないのですか。

【事務局】 10.00%維持の意見の裏側には、その間に次の制度の仕組みを考える、医療費抑止への働きかけ、議論をすべきという考え方もあるかと思っています。

◆議題2 その他

(次回開催について説明)

○特記事項 傍聴人なし

次回開催は12月17日開催を予定